

第75回国立民族学博物館運営会議議事要旨

日時 令和7年7月18日（金）15:00～17:57

場所 国立民族学博物館第1会議室

出席者

（館外） 岡田、窪田、後藤、富沢、中谷、水沢の各委員

（館内） 島村、丹羽、野林、日高、平井、福岡、三尾、山中の各委員

（陪席） 關館長、須原管理部長、魚井総務課長、小野研究協力課長、藤本財務課長、
小野企画課長、中山情報課長

（事務局） 小笠総務課課長補佐、河野総務企画係長

議事に先立ち、福岡議長から、本会議は、国立民族学博物館運営会議規則第5条第1項及び第3項による成立要件を満たしている旨の説明があり、総務課長から配付資料の確認があった。

議 事

1. 会議の運営について

（1）館長挨拶

關館長から、第75回国立民族学博物館運営会議（令和7年度第1回）開催にあたり、挨拶があった。

（2）前回議事要旨（案）の確認について

福岡議長から、資料1に基づき、第74回国立民族学博物館運営会議（令和7年3月7日開催）の議事要旨（案）の確認が行われ、原案どおり承認された。

2. 協議事項

（1）教員人事について

福岡議長から、資料2に基づき、人事委員会から提案のあった1件の人事案件（テニユア付与）について審議願いたい旨の説明があった。続いて、選考委員会の主査から選考経過等について説明があり、審議、投票の結果、テニユア付与が承認された。

（2）令和7年度共同研究について

平井委員から、資料3に基づき、令和7年度共同研究申請新規採択課題一覧について説明があり、審議の結果、一般・館内1件、一般・公募7件及び若手1件の採択について承認された。

3. 報告事項

（1）人事異動について

総務課長から、資料4に基づき、前回開催の運営会議以降の人事異動について、報告があった。

（2）人事委員会について

福岡議長から、資料5に基づき、令和7年6月3日にウェブ開催された人事委員会について、報告があった。

(3) 共同利用委員会について

平井委員から、資料6に基づき、令和7年3月4日、3月28日、5月28日、6月10日、6月26日、6月27日に開催（3月28日、5月28日、6月10日はメール開催）された共同利用委員会について、報告があった。

(4) 研究倫理委員会について

野林委員から、資料7に基づき、令和7年5月21日にウェブ開催された研究倫理委員会について、報告があった。

(5) 研究資料共同利用委員会について

福岡議長から、資料8に基づき、令和7年3月13日に開催された研究資料共同利用委員会について、報告があった。

(6) 人間文化研究機構の動きについて

福岡議長及び担当課長から、資料9に基づき、以下の報告があった。

①令和7年度人間文化研究機構理事等の業務分掌について

福岡議長から、令和7年度人間文化研究機構理事等の業務分掌について、報告があった。

②人間文化研究機構令和7年度予算について

財務課長から、令和7年度人間文化研究機構予算編成方針及び当初予算配分について、報告があった。

③令和7年度機構長裁量経費等の配分について

財務課長から、令和7年度機構長裁量経費等の配分について、報告があった。

(7) 国立民族学博物館の動きについて

1) 令和6年度自己点検報告書について

平井委員から、資料10に基づき、令和6年度自己点検報告書について、報告があった。このことについて、館外委員から寄せられた主な意見等は次のとおりであった。

・共同研究成果一覧に掲載のある書籍は、民博の助成を得て出版したものか。共同研究終了後の刊行物をどのように把握しているのか。

→本館の助成を得て出版したものが大半である。共同研究の募集要項に【共同研究期間終了後に提出するもの】として、刊行物等を本館へ報告するよう明示している。

・自己点検報告書と人間文化研究機構から配分される予算はどのように連動しているのか。「S. 特筆すべき進捗状況にある」と評価した研究等は、予算に反映されているといえるのか。反映されているといえない場合は、予算が増額されるにはどのようにすればよいのか。

→機構長裁量経費では、「フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文学研究の推進」「持続可能な人類共生社会を目指すユニバーサル型メディア展示の構築」の2件を本館から提案している。機構長裁量経費の申請の方が時期は早いので、そちらに記載したエビデンスを自己点検報告書に記載しており、連動はしていない。

・共同研究について、「今後の活性化が十分に期待される」と記載があるが、今年度の不採択は1件のみで、予算内に大半が収まる応募件数だったので、懸念している。

→応募件数が減っている、特に民博館内からの応募件数の減少を懸念している状況で、

共同研究のさらなる活性化を図りたい。

- ・日本の研究機関が保管していたオーストラリア先住民の遺骨を返還したことを、メディアが注目している。その関連で、厨子甕返還について民博に取材を申し込んだが、断られたときいた。民博の対応がネガティブに捉えられてしまうのでは、と懸念している。
- 現在、対応している。当初、前館長に依頼があり、退職した身なのでと応じられなかったのが、民博宛に改めて取材の依頼があった。
- ・特別研究の共通テーマ「ポスト国民国家時代における民族」の「ポスト」とは、国民国家がいずれ消滅するという想定で設定されたものか。
- グローバル化の別側面として、今までの国民国家の強い枠組みが揺らいできているということであり、消滅するとは想定していない。
- ・共通テーマのもとに構成されている5つのプロジェクトにおいて、国際情勢とのからみや現状を加味しながら、相互に情報交換等し、「ポスト国民国家時代」という設定からどういう新しいものが見えてきたのか伺いたい。
- 5つのプロジェクトの代表者が定期的集まり、意見交換をし、また別のプロジェクトの組み立て方を学び、相互に経験値を増やしているところである。令和8年度に国際シンポジウムがあり、中間的な成果を発信したいと思っており、議論をしていく。
- ・文化資源関連事業で「展示場のユニバーサル化を促進」とあるが、視覚障害者向けの展示ということか。
- 「展示場のユニバーサル化」で特に力をいれているのは、視覚障害者対応の展示案内ツールの開発と、高齢者に向けた取り組みの自動運転モビリティ WHILL である。不足しているのが聴覚障害者への対応である。手話言語の導入が期待されており、展示場にどのように実装するのか議論を始めている。なお、「可視化」等、使用する言葉についても障害者の意見をきき、選定している。
- ・自動運転モビリティとは具体的にどのようなものか。
- 電動車椅子とご理解いただきたい。展示場を3Dマップ化し、コースを定め自走するものであるが、関心のある展示物の前で、乗車している来館者が停止させることも可能で自由度がある。また、音声ガイドも開発し、自動運転モビリティに実装しており、展示解説をききながら観覧いただける。
- ・自己点検報告書と中期目標・中期計画との関係性がわからない。中期目標・中期計画の外部評価と自己点検報告書の自己評価との整合性をどのように取るのかも懸念している。中期目標・中期計画との関係や次期のための資料の整理に、民博を維持する事業、発展する事業、特筆すべき事業が混然と記載されている自己点検報告書をどう活かすのか知りたい。
- 自己点検報告書は本館の外部評価委員会で評価いただき、活動に反映している。中期目標・中期計画は法人単位で、人間文化研究機構が作成するもので、それでは本館の点検にならないので、自己点検報告書は継続して作成していきたい。
- ・人間文化研究機構へ予算増額の交渉をする際に、フラットに事業が記載されている自己点検報告書では、民博を魅せることができない。事業の選択を迫られる際にどの事業が核となるのか、議論が必要である。
- ・椅子に座って観る要望は潜在的にあると思うので、自動運転モビリティではどのように展示物を観ることができるかを記録し、発信していくと良いと思う。
- ・ブックレット『大学生・大学院生・大学教員のための活用ブック：みんなのディープなトリセツ』はウェブサイトで公開されているか。
- デジタルブックとして公開した。データベースなど、関連するページへ遷移できるよ

うになっている。

引き続き、各委員等から、資料11から17に基づき、以下の報告があった。

- ・山中委員から、入館者数等について
- ・福岡議長から、本館の活動状況について
- ・關館長から、受賞について
- ・平井委員から、学術交流協定の締結について
- ・三尾委員から、総研大について
- ・財務課長から、令和8年度概算要求について
- ・須原管理部長から、令和6年度監事監査報告書について

2) 国立民族学博物館をとりまく動きについて

關館長から、資料18に基づき、次の事項について報告があった。

- ・故菅瀬晶子准教授の受賞について
- ・館長就任挨拶廻りについて
- ・(Expo2025 大阪・関西万博に伴う) 海外からの表敬訪問について
- ・文書資料室の設置について
- ・観覧料規則の改定について
- ・土地借料について
- ・本館展示「中国地域の文化」の更新について
- ・ホーデノショーニー資料の返還要請について
- ・科学研究費補助金を始めとする外部資金獲得について
- ・菊澤律子教授・共同研究加速基金（国際先導研究）『時空言語学』の創成：地理と歴史を融合した言語の変化と発展への新たなアプローチについて
- ・人間文化研究機構が刊行する Brill 社人間文化研究機構シリーズ本（“NIHU Studies in the Humanities”）について
- ・自己資金獲得手段の検討について

以 上